

棚尾地区まちづくり事業  
平成25年5月22日（水）19時～  
棚尾公民館3階

## 第23回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行（小笠原幸雄）

- 1 前回までのテーマに関する参考意見など  
源氏の地名と長田氏、杉浦宗京の土風炉など
  
- 2 テーマ42 「琴平社」
  - (1) 説明（磯貝国雄）
  
  - (2) 出席者による補足説明、感想など
  
- 3 連絡事項・情報交換など
  
- 4 次回日程  
第24回 6月19日（水）午後7時から  
「杉浦治助」「光照寺弁天池」  
第25回 7月24日（水）午後7時から  
「六代永坂奎兵衛と漢学」「仏事の料理」

## テーマ42 「琴平社」

### 1 要旨

源氏町4丁目に旧字加須組の崇敬神社である琴平社がある。昔、讃岐の国の船頭である井上浅右衛門は、江戸への航海の途中嵐に遭ったが、海の守り神である金毘羅さんを何度もお祈りし、難を逃れることが出来た。その後、助けてくれた船の船頭を頼ってこの地へ移住し、琴平社を建立しお祀りした。

毎年、9月第2日曜日に大祭、正月に新年祭が斎行される。以前の祭礼では、福助のお面を着けて踊る「てくすけ踊り」や沿道の家々で等身大に近い人形を飾る「かざりもん」で多いに賑わった。

阿部繁弘氏のボールペン画



### 2 琴平社の由緒

拝殿の外に、次のような由緒を書いた案内板が掛かっている。昭和51年12月に社団法人碧南青年会議所が発行した「へきなんの神社と寺院」と同文である。

鎮座地	碧南市源氏町4丁目17番地
祭神	大国主命 崇徳天皇
祭儀	例祭日 9月10日
創立	不詳
社格	15等級 (旧無格社)
由緒	往昔 井上浅右エ門と言う人が讃岐国より移住 棚尾村字大ノ内へ一宇建立 茲に鎮座奉仕 大正元年より加須組の13戸と協議の上崇敬することとなり 大ノ内の字は改組の際加須と改名したと言われ 現在加須の崇敬神社として今日に至る

### 3 碧南の民話

「棚尾の金毘羅さん」

讃岐の浅右衛門は、荷物を運ぶ回船の船頭でした。浅右衛門が嵐にあったのは、江戸からの帰りでした。伊豆の港から遠州灘に入って間もなく、大粒の雨が降り出し、風も強まりました。小山のような波が、次々と襲ってきました。

何度目かの大波が襲った時、舵取りが「親方！舵がやられた。」と叫びました。船底にはどんどん水が入ってきます。「このままでは、船は沈んでしまう。荷物を捨てれば、船は助かるかもしれない。だが、荷物を捨てれば船頭としてのわしの信用はなくなってしまふ。いや、六人の命にはかえられない。」迷った末、浅右衛門は「荷物を捨てろ！」と命じました。

嵐はおさまり、六人の船乗りは全員無事でした。舵も帆もない船は海をさまよっていました。浅右衛門は、海の守り神の金毘羅さんに何度も祈りました。そして、三日目、江戸送りの大浜船に助けられました。江戸の港で讃岐の船を見つけ、乗せてもらうことにしました。

江戸を出る日、浅右衛門は大浜船の船頭にお礼と別れを言いました。「俺は当たり前のことをしただけだ。それより、俺と一緒に船に乗らんか。俺はお前が気に入った。」大浜船の船頭はそう言って浅右衛門の手を握り、「元気でな。また会おう。」と言ってくれました。

讃岐に帰った浅右衛門は、期限までに荷物が届かなかったために、荷主の店がつぶれ、一家がどこかへ逃げたことを知りました。六人の命を救うために、しかたなく捨てた荷物でしたが、町の人々は浅右衛門の悪口を言いました。このままでは船頭としてやっていけないと考えた浅右衛門は、大浜船の船頭に頼ってみようと決心しました。讃岐を出る前、浅右衛門は琴平社へ参り、お神札をいただきました。

大浜に着いた浅右衛門は、船頭の世話で、棚尾の造り酒屋の手船に雇われました。浅右衛門は一日も休まず働きました。ある日、造り酒屋の主人が声をかけました。「お前さんよく働くね。そんなに働くのは何か訳でもあるのかね。」そこで、浅右衛門は嵐にあった日から今日までのことを主人に話しました。「わしは、故郷を出る時、金毘羅さんのお神札をいただいてきました。海で助けてもらったお礼と、荷主へのお詫びに、いつか自分の手でお社を建てて、お神札を納めたいと願っています。」

それから、何年かたったある日、主人が言いました。「望みはかないそうかね。」「いや、まだまだです。お社を建てるのはいつになるか分かりません。」「私はお前さんの働きぶりにいつも感心していましたよ。浅右衛門さん、そこで話があるが、倉の横の空き地へお社を建ててみないか。」「えっ、ほんとうですか。でも私には、お社を建てただけの金はありませんが。」「金毘羅さんは海の守り神だ。お社が出来れば喜ぶ人も多いただろう。金の足りない分は、私が出そう。」「だんな様、ありがとうございます。」浅右衛門は地面に

手をつき、深く頭を下げました。

浅右衛門が造り酒屋の助けをかりて、琴平社を建てたのは、ふるさとを出てから七年目のことでした。

#### 4 神社に関する記録

##### (1) 明治3年神社取調書上帳

「琴平社」

祭神	琴平神御札
本殿	奥行き2間4尺5寸 横2間
木鳥居	高サ1丈5寸 冠7尺5寸
石燈籠	3燈
水屋	1ヶ所
籠家	塹4間 横2間
社地	但年貢地古来之儘 120坪

##### (2) 棚尾村史

鎮在地及び面積 村の西北字加須にあり、東西2間半、南北10間  
境内坪数25坪

祭神 崇徳天皇（第75代）

社格 無格社

祭日 11月10日 明治13年

10月10日 明治20年

由緒 往昔、井上浅右衛門讃岐の国より移住し、その際の夢想によって、字大内に堂宇を建立する。大内は後に改名して、加須となり、加須の組内の崇敬厚く、祭典は、加須組にてこれを執行する。

##### (3) 明治10年 神社明細帳

第壱部落内 第19番 無氏子

無格社 琴平社 碧海郡棚尾村字加須

一 勸請年月 不承

一 祭神 崇徳天皇

一 祭日 10月10日

一 社殿 2間4尺5寸

一 鳥居 1間4尺5寸 1間1尺5寸

一 手水鉢

一 境内地 民有地 長田半十 扣地

前書之通相違無之候也 明治10年12月

世話方総代 棚尾村 井上浅右エ門 太田文三郎

用係 齋藤和三郎

祠掌 長田務

(4) 明治11年 神社什物祭具其他取調書 琴平社

- 一 掛鏡 津田薩摩守定次作 1面 年月、寄附人不詳
- 一 社号額 1面 //
- 一 燈籠 鉄 1対 //
- 一 本社雨覆 1棟 此建物坪数5坪5合
- 一 石燈籠 1対 但文政7年甲申3月 寄附人長坂吾助
- 一 石燈籠 1対 但 文政7年甲申3月 大濱村正行院
- 一 手水鉢 1 年月、寄附人不詳
- 一 木鳥居 1口 年月、寄附人不詳
- 一 境内反別 2畝23歩 民有地

崇敬人総代 井上浅右エ門 榊原七兵衛

用係 齋藤和三郎

祠掌 長田務

祠官 榊原宣安

(5) 明治41年 神社財産登録願 金毘羅社

碧海郡棚尾村字加須28番地 宅地4畝24歩

本殿 妻正面入母屋造檜材屋根瓦葺 5坪3合4勺

鳥居 八幡形桧材 横明9尺4寸 高1丈1尺5寸

手水舎 桧材屋根板葺 1坪3合8勺

水盤 石造花崗岩 幅2尺 横5尺2寸 高1尺5寸

石垣 石造花崗岩 長18間4分 高3分

燈籠 八幡形石造花崗岩 高6尺5寸 底面2尺5寸

〃 高7尺 底面2尺

〃 高7尺 底面2尺

(6) 宗教法人成立届書類

宗教法人令による届出 昭和21年7月28日

愛知県知事認証 昭和27年11月4日

神社名 琴平社

所在 棚尾町字加須28番地

主管者氏名 大山貞次

主管者住所 森下42番地

基本財産の総額 1,889円4銭也

## 神社規則 1 通

主管者 大山貞次

昭和 21 年 総代 角谷市太郎 永坂清治郎 杉浦吉松

昭和 27 年 〃 杉浦嘉太郎 斎藤増蔵 石川梅吉

「琴平社規則」

### 第 1 章 総則

第 1 条 神社は惟神の大道に遵ひ普く同胞をして神思を奉謝し神徳を奉体せしめ淳厚なる民風を作興し以て世界人類の福祉に寄與するを目的とす

第 2 条 神社は琴平社と称す

第 3 条 本神社の所在地は愛知県碧海郡棚尾町字加須 28 番地とす

第 4 条 本神社は神社本庁に所属す

### 第 2 章 祭祀

第 5 条 本神社の大祭は次の如し

新年祭（祈年祭） 3 月 10 日

新嘗祭 12 月 10 日

例祭 10 月 10 日

第 6 条 本神社の中祭次の如し

歳旦祭 1 月 1 日

元始祭 1 月 3 日

紀元節祭 2 月 11 日

天長節祭 4 月 29 日

明治節祭 11 月 3 日

第 7 条 大祭及び中祭以外の祭典は之を小祭とす

第 8 条 本神社に於て行ふ恒例式次の如し

春季皇霊祭遥拝

神武天皇 〃

秋季 〃

神嘗 〃

大正天皇 〃

大祓 6 月 30 日 12 月 31 日

第 9 条 第 5 条乃至第 7 条に定むるものの外必要に依り臨時祭典を執行す

第 10 条 本神社は委託に依り民間神事其他礼典を執行す

以下省略

## 5 現在の施設

- (1) 社殿 妻正面入母屋造桧材屋根瓦葺
- (2) 手水舎 桧材屋根瓦葺 水盤 花崗岩造
- (3) 鳥居 八幡形造桧材
- (4) 社殿内 内待燈籠 一对  
寄附人 源氏：斎藤与一郎 芋源  
日影：杉浦喜市 前畑：斎藤吉〇
- (5) 社殿内 釣燈籠 一对  
寄附人 井上富次郎  
黒田海次郎 池田久太郎  
石川竹次郎 金原仙松  
長坂兼松 杉浦嘉市  
小笠原重太郎 古久根勇次郎  
杉浦篠次郎 斎藤源次郎
- (6) 境内燈籠 八幡形花崗岩 社殿前一对  
象頭山 文政七甲申年三月吉日  
願主 高棚村 石川清七  
同所 長坂吾助  
横須賀 榊原半左衛門
- (7) 境内燈籠 八幡形花崗岩 入り口東一基  
奉献金毘羅大権現 賢静敬白  
文政七甲申年正月吉祥日  
願主 大浜 正行院
- (8) 石柱幟建て  
昭和九年六月  
寄附人 長崎松太郎 やす
- (9) 奉納金石柱
- |   |        |          |           |
|---|--------|----------|-----------|
| ア | 金貳百五十円 | 昭和十五年    | 大濱町 太田徳二郎 |
| イ | 金百円    | 昭和十五年八月  | 当町 斎藤安三郎  |
| ウ | 金百円    | 昭和十九年十月  | 某氏        |
| エ | 金百円    | 昭和十五年十一月 | 寄附人 斎藤安三郎 |
| オ | 金百円    | 昭和十五年    | 当町 石川梅吉   |
| カ | 金百円    | 昭和十九年    | 鈴木しう      |
| キ | 金五十円   | 昭和十九年三月  |           |
| ク | 金五十円   | 昭和十九年    | 永坂        |

## 6 金毘羅社とは

### (1) 辞書（広辞苑）の抜粋

「金毘羅」とは、仏法の守護神の一つ。もとガンジス河にすむ鱈が神格化されて、仏教に取り入れられたもの。蛇形で尾に宝玉を蔵するという。薬師十二神将の一としては宮毘羅（くびら）大将または金毘羅童子にあたり、わが国で香川県の金刀比羅宮に祀るのはこの神という。航海の安全を守る神として船人が最も尊敬。

### (2) 碧南市内の琴平社

大濱熊野大神社の末社

天王津島社の末社及び入口の大きな常夜灯

## 7 ボールペン画

「碧南 水の恵みの道」阿部繁弘 2006年10月発行

琴平社

小さな御堂、その周りを熱心に掃き清めている人がいた。バケツの水で燈籠の石を洗い流して帰って行かれた。以前、漁業組合長さんから、漁業に従事している人は、昔は危険と隣り合わせで、それだけ身の安全を祈願するため神社仏閣を大切にし、心の拠り所としたのだらうという話をお聞きしたことがある。

昔、井上浅右衛門という人が讃岐国からこの地に来て、棚尾村字大ノ内に一字を建立鎮座した。大正元年より加須組の13戸と協議の上、崇敬することとなり大ノ内の字は改組の際、加須と改名したといわれ、現在、加須の崇敬神社として今日に至っている。

小さな堂宇ながら立派な瓦葺の屋根を持ち、重厚さをかもし出している。鬼瓦も飾り瓦も堂々としている。気が付くと燈籠の台座に丸い穴があいていた。まさに点滴石を穿（うが）つの例え通り歴史の重みを感じさせるものである。

過ぎし日の 終（しまひ）金毘羅 目に浮かべ 繁弘

## 8 役員

平成25年度の役員は次の通りである。

氏子総代：長崎信夫、榊原奈美雄、長田治夫

書記：北原悟

役員：1年目 永谷充春 生田納 長瀬成人

2年目 生田正人、社守：永坂光治、会計社守：永坂一彦、斎藤英延

以上11名



## 9 行事

(1) 平成24年度琴平社年間行事は次の通りである。

- |           |                          |
|-----------|--------------------------|
| 5月～6月     | 集会場屋根補修作業、境内草取り清掃作業等     |
| 8月19日(日)  | 琴平社大祭準備集会                |
| 9月2日(日)   | イチョウ、ウバメガシ剪定、ぬれ縁組み付け、草取り |
| 9月9日(日)   | 琴平社大祭 午前6時               |
| 12月2日(日)  | 新年祭について集会                |
| 12月31日(月) | 新年の準備テント設営等              |
| 1月1日(火)   | 午前3時頃片付け終了               |
| 1月4日(金)   | お供え物配布、片付け等(午後1時～5時)     |
| 2月20日頃    | 役員改選                     |
| 3月31日     | 新旧役員引継ぎ                  |

(2) 余興

ア 明治26年の古い記録では、例祭で有志者による獅子舞が奉納されている。

イ 琴平神社祭事帳からの抜粋 昭和33年始 加須組世話方

- |            |  |
|------------|--|
| 昭和33年      | 水屋移転と本社板囲い修理。  |
| 昭和34年9月10日 | 例祭余興 素人のど自慢大会  |
| 昭和35年9月10日 | 余興映画(市役所)。有志にて福助踊り青天にて盛大にて終わる                                      |
| 昭和36年9月10日 | 祭礼 映画と福助踊り、大人達三十有余名参加盛大に挙行   |
| 昭和39年9月10日 | 祭礼 映画(市役所)と福助踊り  |
| 昭和40年9月10日 | 祭礼 映画(市役所)と福助踊り、大暴風雨のため余興中止  |
| 昭和41年度     | 琴平社大祭並びに琴平会館完成祝賀会開催。余興として福助踊り及びかざり物を催した。会館竣工の都合上祭礼を延期し10月23日に実行した。 |
| 昭和43年9月10日 | 祭礼 映画(市役所)と福助踊り。本年度より連絡員、納税組合長、伍々長が代行する。                           |
| 昭和48年      | 新町名地番設定  |
| 昭和55年9月14日 | 祭礼が本年より9月第2日曜日となる  |
| 平成5年7月10日  | 大イチョウ枝打ち   |
- ウ 素人芝居  
昔は組の人達が演技する素人芝居も盛んに演じられた。

## 10 福助踊り

### (1) 平成元年10月25日の新聞記事

「福助おどりを再現」

碧南 来年、琴平社奉納へ

昭和15年以来途絶えていた碧南市棚尾地区・琴平社の「福助おどり」が24日、地元の斎藤巖さん(74)＝源氏町＝により棚尾公民館で再現。棚尾商店街振組青年部(杉浦雅仁代表)がビデオに収め、子供たちにも伝えるとともに来年の天皇御大典の際、奉納する考え。

このおどりは、斎藤さんの父親で素人歌舞伎の座頭をしていた惣太郎さん＝昭和10年、59歳で死去＝が、同3年、昭和天皇御大典の際に考案し、琴平社で奉納されたのが最初。

その後、昭和15年の皇紀二千六百年祭でも奉納された。戦後は琴平社の秋の祭礼時に、子供や青年らがかみしも姿で「福助おどり」の恰好をして、練り歩き、昭和34年の伊勢湾台風前後まで続いた。

ビデオ撮りは午後2時から行われた。おはやしに合わせ、斎藤さんがかみしも姿で福助のお面をつけ、幼いころの記憶をたどって踊った。そろりそろりと歩を進め、扇子を出してはしまうスローテンポな踊り。「福助おどり」復活を目指す青年部員らがその動きをじっと見守った。

### (2) 平成21年の中日新聞記事(月日不明)

「てくすけおどり」復活

碧南市棚尾小学校3年2組の児童36人が、30年前に途絶えた地元の「てくすけおどり」の復活プロジェクトを進めている。祖父母らにも聞き取りをし、踊り方をマスターした児童たちは3月10日、晴れ姿を披露する。

「てくすけ」は福を招く「福助」がなまったもの。てくすけおどりは、福助の大うちわを先頭に、かみしも姿で面を着けた大人たちが囃子や「ソーラソーライ」の掛け声に合わせて、扇子を広げながら、町を練り歩く。1895年(明治28年)日清戦争の祝勝提灯行列で踊ったのが始まりとされる。

旧加須組(現碧南市源氏町)の琴平社の祭礼の余興として伝わってきたが、30年ほど前からは行われなくなったという。1998年9月に、地元商店街の青年部を中心に一度だけ復活している。

児童たちは昨年10月から総合学習で琴平社や祖父母取材し、てくすけおどりの由来を調べた。98年当時の衣装が残っており、「地元の伝統を自分たちが引き継ごう」と復活プロジェクトを企画した。

担任の奥谷俊彦教諭は「小さな地区の話で、市史にもインターネットにも資料がない。自分で足を運び、人から話を聞く作業は子どもたちには大変な作業だった」と話

す。3月10日午前10時から琴平社で、児童たちは「創作てくすけおどり」を披露した後、伝統通りの振り付けで源氏町一帯を練り歩く。

### (3) 平成21年3月11日の中日新聞記事

「平成21年3月10日 棚尾小学校3年2組児童」

琴平社周辺伝統通りの振り付けで碧南市棚尾小学校3年2組の児童たちが、地元の琴平社で祭礼の余興として伝わりながら、30年前に途絶えた「てくすけおどり」を披露した。10日、地元の人たちや保護者ら百五十人が見守る中、琴平社周辺を練り歩いた。てくすけおどりは、福助の大うちわを先頭に、かみしも姿で面を付けた大人たちが「ソーラソーライ」の掛け声に合わせて、肩をすくめたり、扇子を広げるコミカルな動きで街を練り歩く。1989年に旧加須組（現碧南市源氏町）の商店街青年部を中心に一度だけ復活したことがある。

総合学習でおどりの由来や振付を調べていた児童たちは、10年前の囃子のテープや大うちわなどを借りて本番に臨んだ。背に「福」の字があるそろいの法被姿に、手作りの面と扇子を身に着けて児童たち36人が登場。練習した伝統通りの振付で、源氏町一帯を30分ほどかけて回った。

現在も保管されている「福助踊り」に使われた大うちわ



### (4) 思い出話

ア 昔は、三味線などを弾く人はリヤカーに乗って行列に加わっていた。しかし、昭和36年の写真ではリヤカーが自動車に代わっている。

イ 大うちわは絵の上手な永坂清治郎さんが描いた。

## 1.1 関連事項

### (1) 古紙回収

氏子総代さんが中心となって、神社の経費を賄うために、資源回収をしている。案内看板には次のように書かれている。

「毎週日曜日早朝より午後1時まで琴平社拝殿東側で古紙（新聞、チラシ、雑誌）を回収します。集ったお金は今後必要となる琴平社の修理・補修代金の一部に充てたいと思います。みなさんのご協力をお願いします。役員」

(2) 飾りもんの話

以前の祭礼では、沿道の家々で等身大に近い人形を飾る「かざりもん」で多いに賑わった。

(3) 西部（さいぶ）クラブ

こんびら集会場の西側にかけて西部（さいぶ）のクラブの建物があった。

(4) 防災設備

ア 境内には戦前から防火貯水槽があり、町を守っている。

イ 平成19年度愛知県緊急市町村地震防災対策事業費補助事業で動力可搬ポンプ1台が配備されていて、棚尾中自主防災会が管理している。

(5) 源氏町ちびっ子広場

境内は昭和58年8月27日から、ちびっ子広場として利用されている。面積は、452㎡、設備はスベリ台とブランコ一体型遊具、鉄棒、砂場である。

(6) 地名

一部の古文書だけの調査であるが、文化10年（1813）には「大野内」の表記があり、その後「大ノ内」になり、明治4年（1871）では「加須」になっている。